



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ(2)

内田, 銀藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 4(3):331-345

(Issue Date)

1908-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051235>



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ (其二)

京都文科大學教授

文學博士 內田 銀藏

第二 蝦夷ノ移置

東北ノ地方ニ居住セル蝦夷ノ種族ガ内地ニ移シ置カレタルコトモ、マタ其ノ由來尙シ。相傳フ、景行天皇ノ御世ニ、日本武尊東征シテ蝦夷ノ國ノ境ニ至ルヤ、蝦夷ノ酋長等其ノ威ニ畏レテ降服セシカバ、尊ハ彼等ヲ俘^{トリ}ニシテ牽キ歸リ、遂ニ其ノ俘ニセル蝦夷等ヲ神宮ニ獻ゼラレタリ、然ルニ此等ノ蝦夷等、晝夜喧嘩、其ノ粗野ノ俗ヲ改メザリシヲ以テ、倭姫命カ、ル者共ハ神宮ニ近ヅクベカラズトテ、之ヲ朝廷ニ上ル、仍テ彼等ヲ大和國御諸山^{ミモロ}ノ傍ニ置ケリ。御諸山ハマタ三諸山ニ作ル、大三輪神ノ鎮座スル所、即チ今ノ磯城郡ナル御輪山^{ミワ}是レナリ。コハニテモマタ彼等ハ神山ノ樹ヲ伐リ、近傍ノ人民ヲ脅ス等ノ暴行アリシカバ、天皇之ヲキコシメシテ、更ニ彼等ヲ他ノ地方ニ分遣セシム。此ノ如クニシテ、諸方ニ分遣セラレタル蝦夷等ハ、即チ播磨、讃

岐、安藝、阿波、伊豫ノ五國ニ居ル佐伯部ノ祖先ナリト。是レ日本紀ニ載スル所ナリ。(一)

(一) 日本紀、卷七、景行天皇四十年、及五十一年ノ條。本書、普通流布ノ本ニハ、此ノ蝦夷ノ子孫ナリト云フ佐伯部ノ居リシ國々ヲ播磨、讃岐、安藝、阿波及伊勢トスレドモ、今ハ一本ニ據リ、姓氏錄ヲ併セ攷ヘテ播磨、讃岐、安藝、阿波及伊豫ト記セリ。

マタ姓氏錄ニモ日本武尊東征ノ折ニ俘ニセラレタル蝦夷ノ子孫、播磨國ニ移シ置カレタルモノニ就キテノ傳說ヲ載ス。曰ク譽田天皇(應神天皇)針間國(播磨神埼郡瓦村ノ東)岡上ニ到リ給ヒシ時ニ青菜ノ葉、岡邊ノ川ヨリ流れ下リケレバ、天皇、川上ニ人アルベシト宣ヒテ、伊許自別命ヲ遣シテ往テ尋子シム。伊許自別命ハ景行天皇ノ皇子、稻背入彦命ノ後ナリ。伊許自別命往テ尋子シニ、果シテ其ノ川上ニ住スル人アリ。之ニ問ヒシニ答ヘテ曰ク、己等ハ日本武尊、東夷ヲ平ゲ給ヒシ時ニ俘ニセラレシ蝦夷ノ後ナリ。針間、阿藝、阿波、讃岐、伊豫等ノ國ニ散遣セラレ、各々其ノ居地ニ仍テ氏ト爲スト。伊許自別命、視察ノ結果ヲ復奏ス。是ニ於テ天皇、伊許自別命ニ汝其ノ蝦夷等ノ君トシテ之ヲ治メヨト詔リ給ヒ針間別佐伯直ト云フ。姓ヲ賜ヒシト云フ。(二)

(二) 新撰姓氏錄、右京皇別下佐伯、直ノ條

此等ノ古傳ヲ玩味シ其ノ意義ノ存スル所ヲ考究スルニ、凡ソ三ノ注意スベキ要點アルコトヲ認ム。第一ノ點ハ上古ノ世、異種族ヲ討チ平ゲ、俘虜ヲ獲タル場合ニ於テ之ヲ神社ニ奉リ、其ノ隸屬ノ賤民タラシムルコトアリシト思ハル、コトナリ。先キニ引ケル日本紀ノ記事中、蝦夷ノ俘ヲ大和國御諸山ノ傍ニ安置セシト云フモ、蓋シ之ヲ大三輪神ニ奉リテ其ノ神賤トシタルニハ非ズヤト考ヘラル。(三)第二ニハ内地ニ率キ來ラレタル蝦夷ノ俘虜ハ或ル一地方ヲ限リテ置カレタルニ非ズ、分チテ諸方ニ移シ置カレ、其ノ子孫ハ諸國ニ散在スルニ至リシコトナリ。何故ニ之ヲ一所ニ置カズシテ諸國ニ散遣セシカト云フコトニ就キテハ、古史ニ其ノ理由ヲ明記セズト雖、恐ラクハ統御ノ上ノ便宜ヲ計レルモノナラン。第三ニハ上古ノ世ニ存在シタル部ト稱スル人民ノ團集中ニハ蝦夷ノ子孫ヨリ成レルモノモアリシコト及ビカハ、ル部ノ場合ニ於テ部ノ民ハモト蝦夷ノ種族ニ屬スト雖、部ノ長トシテ之ヲ統轄シタル氏族ハ必ラズシモ蝦夷ニハ非ルコト是レナリ。播磨ニ居レル佐伯部ハ、即チ蝦夷ノ子孫ヨリ成レル一ノ部ナレドモ、其ノ首長タル佐伯、直ハ景行天皇ノ後裔

ニシテ、即チ皇別ニ屬シタルコト先キニ擧ゲタル姓氏錄ノ傳ニヨリテ之ヲ徵スベシ。

(三) 外國ヨリ來レル工人ヲ大三輪、神ニ奉リシコトノ例證ハ明ニ日本紀ニ見ユ。雄略天皇紀十四年三月ノ條ニ、吳國^{クニ}即チ南支那地方ヨリ來レル衣縫^{キヌヒ}兄媛ヲ以テ大三輪神ニ奉ルトアル即チ是レナリ。

上古ノ事實ハ多ク已ニ滅ビテ今ニ傳ハラズ、古史ニハ只其ノ片影ヲ留メ、其ノ一斑ヲ傳フルニ過ギズ。故ニ蝦夷征討ノ結果、俘虜ヲ獲之ヲ内地ニ率キ來リシコトノ如キモ、決シテ一再ニシテ止マラザリシナランガ、古史ノ記載ニ漏レテ、其ノ事實終ニ今日ニ傳ハラザルモノ、蓋シ必ラズコレアリシナラント思ハル。サテ蝦夷ハモト慄悍ニシテ強暴、未ダ野蠻ノ狀態ヲ脫セザリシヲ以テ、上古ノ世、其ノ俘虜ヲ制馭シ之ヲ撫育シ之ヲ同化スルニハ、頗ル手段ヲ要シタルコト、思ハル、ガ、彼等ハ慄悍ニシテ御シ難カリシ代リニ、若シ能ク之ヲ制馭シ之ヲ訓練スルトキハ、兵士トシテ勇敢、用フルニ足ルモノアリシコトナルベシ。サレバ當時、韓半島ニ出兵シ、新羅ヲ征スル等ノコトアルニ當リ、蝦夷ヲモ兵士トシテ用ヒ、同ジク出陣セシメタルコトア

ル、亦寧ロ自然ニシテ怪ムニ足ラズト云フベキナリ。此ノ事、古史ニ充分ナル徵證ナシト雖、幸ニシテ一證アリ。日本紀、雄略天皇崩御ノ條ニ曰ク、是ノ時ニ征新羅將軍吉備臣尾代^{ビノ、オミヲシロ}行テ吉備國ニ至リテ家ニ過^{ヨギ}レリ、後ニ其ノ率キル所ノ五百ノ蝦夷等天皇崩ズト聞テ乃チ相謂テ曰ク、吾ガ國ヲ統ベ治メ給フ天皇既ニ崩ジ給ヘリ、時失フベカラズト相結集シテ傍郡ヲ侵シ寇ス云々ト。此ノ記事ニ據リテ征新羅ノ軍中ニ蝦夷隊アリシコトノ例ヲ見ルベク、コレヨリシテ海西ニ事アルヤ、蝦夷ヲモ併セテ兵士トシテ用ヒタルコトアルヲ察スベシ^(四)。而シテ蝦夷ノ動モスレハ騷擾シテ規律ニ違ヒ、甚ダ馭シ難カリシコト、亦此ノ記事ニ於テ其ノ一斑ヲ見ルベキ也。

(四) 此ノ關係ニ於テ、中古ノ世ニ夷俘ヲ鎮西ニ配置シテ警固ニ充テ、新羅ノ賊ニ備ヘタルコト思ヒ合ハスベシ。夷俘ヲ大宰府ニ遷シテ防人トシタルコトニ就キテハ、後段ニ至リテ之ヲ詳述セム。

上古ノ末、中古ノ初ニ於テモ、蝦夷ヲ討テテ之ヲ虜ニシタルコト史上ニ其ノ記載アリ。例ヘバ舒明天皇ノ御世ニ上毛野君形名蝦夷ヲ討チ、初メ戰利アラザリシモ、終ニ敵ヲ敗リテ悉ク之ヲ虜ニシタリト云フガ如キ即チ是レナリ^(五)。齊明天皇ノ御世

ニハ阿倍引田臣比羅夫、肅慎人ト戰ヒテ歸リ、虜四十九人ヲ獻リシト云フコトヲ傳フ(六)肅慎人ハ是レヨリ先キ我ガ佐渡島ノ沿岸ニ來リテ淹留シ居リシコトアリ、此ノ頃ハ船ニ乘リテ屢々今ノ北海道ノ地ニ來往セシモノ、如シ(七)。

(五) 日本紀、舒明天皇九年ノ條

(六) 齊明紀五年ノ條ノ註

(七) 欽明紀五年及齊明紀六年ノ條

奈良朝ヲ通ジテ平安時代ノ初期ニ至ルマデ、東北邊疆ノ經略、蝦夷ノ征討ハ引續キ行ハレ、奥羽地方ノ拓地植民ハ次第ニ其ノ步ヲ進メタリ。而シテ征討ノ結果、蝦夷ノ部落掃蕩セラレ絶滅ニ至リシモノモコレアリシナランガ、其ノ歸順降服シ、マタハ俘虜トナレルモノモ、亦決シテ少キニ非リキ。此等ノ歸降馴服セル蝦夷、竝ニ俘虜等ハ、其ノ儘引續キ其ノ故地ニ居住スルコトヲ許サレタルモノモアリシカド、マタ遠ク内地ニ移シ置カレタルモアリシナリ。奈良朝及平安時代ニ於テ此等ノ蝦夷ヲ移シ置ケル地方ハ、決シテ一二ヶ國ニシテ止マラザリキ。例ヘハ東國ニテハ相模、武藏、上總、常陸、上野、下野(八)及甲斐(九)近畿ニテハ近江、美濃、丹波、播磨(一〇)畿内ニテハ攝

津(一)四國島ニ於テハ阿波、伊豫(二)九州島ニ於テハ筑後、豊前、豊後、肥前等(三)ノ如キ、何レモ皆此ノ時代ニ於テ移置ノ夷俘若シクハ俘囚居リシコト、史上ノ記事ニ據リテ明白ナリトス。因幡、伯耆、出雲及安藝ノ如キモ亦然リ(四)、彼ノ九州島ノ東南隅ニ位スル日向ノ地ニマデモ、東北ノ蝦夷ノ種族ハ、此ノ時期ニ於テ徙シ置カレタルヲ見ルナリ(一五)。

(八) 類聚國史卷百九十、桓武天皇延暦十七年六月己亥ノ條ニヨリテ相模、武藏、常陸、上野、下野ニ歸降ノ夷俘安置セラレタルコト徴スベシ。上總國ノ俘囚及夷俘ハ同上仁明天皇承和十五年二月庚子及壬寅ノ條竝ニ三代實錄卷十八、貞觀十二年十二月二日己卯ノ條ニ見ユ。常陸ノ夷俘及俘囚ニ就キテハ、類聚國史卷百九十、嵯峨天皇弘仁八年九月丙申、同十三年九月癸丑、及淳和天皇天長元年十月戊子ノ條等ニモ其ノ記事アリ

(九) 類聚國史卷百九十、延暦十九年五月己未ノ條ニ甲斐國ノ夷俘ノコト見ユ。又同上淳和天皇天長八年二月戊寅ノ條ニ曰ク、甲斐國俘囚吉彌侯部、三氣麻呂、同姓草手子二烟、附貫駿河國便魚鹽^{ニスルナリ}也^ト。

(一〇) 美濃、丹波、播磨ノ夷俘ハ同上弘仁六年正月丁亥ノ條近江ノ夷俘ハ同上大同元年十月壬戌ノ條ニ見ユ。

(一一) 同上延暦二十二年四月乙巳、竝ニ弘仁六年正月丁亥ノ條

(一二) 同上弘仁五年二月辛卯ノ條ニ、當宗、忌寸家主ヲ阿波國ニ遣シテ夷俘ヲ教諭スト云フコト見エ、同書同卷、天長九年十二月戊寅ノ條ニ、伊豫國俘因吉彌侯部、於等利等、男女五人、移配阿波國、優情願也トアリ。

(一三) 豐前、豐後、及肥前ハ、同上淳和天皇天長五年閏三月乙未、及同年七月丙申ノ條、筑後ハ同十年二月丁丑ノ條ニ關係ノ記事アルヲ見ヨ。

(一四) 出雲ハ同上弘仁五年二月癸巳、及同年五月甲子ノ條、竝ニ三代實錄卷三、貞觀元年八月二十五日戊申ノ條、因幡、伯著ハ類聚國史卷百九十、弘仁六年八月甲午ノ條、安藝ハ同上天長八年十一月己亥ノ條ニ據ル、因幡ニ就キテハ、又同上弘仁十一年六月辛巳ノ條ニ因幡國俘因吉彌侯部、欠奈閉等六人、移土佐國、以盜百姓、牛馬也ト云フ記事アリ。

(一五) 同上、延暦十四年五月丙子ノ條ニ曰ク、配俘因大伴部、阿豆良等、妻子親族六十六人於日向國、以致俘因外從五位下吉彌侯部、眞麻呂父子二人ト。尙ホ同上承和十四年七月丁卯ノ條ニモ關係ノ記事アルヲ參考スベシ。

前段ニ引證セルモノ、外播磨國ノ夷ハ類聚國史卷百九十、延暦二十四年三月乙亥ノ條ニ見エ、同國賀古美囊二郡ノ夷俘長等、境ヲ越エテ近江國ニ來レルモノアリシコトハ三代實錄卷十二、貞觀八年四月十一日ノ條ニ之ヲ云ヘリ。延暦二十四年ニ

ハ播磨國ノ俘囚等十人、野心ヲ改メズ屢々朝憲ニ違フトテ之ヲ多嶽島ニ配流シタルコトモアリキ(一六)又近江國ノ夷俘、俘囚等ニ就キテハ、尙ホ文德實錄及三代實錄ニ多クノ記載アルヲ見ル(一七)而シテ吾人ハ類聚國史卷百九十、承和十四年四月癸卯ノ條ニ據リテ、近江ノ中ニテモ蒲生郡ニ俘囚居リシコトヲ確ムルヲ得ルナリ。其ノ外ニ奈良時代ニ於テ伊豫及筑紫ト共ニ和泉ニモ俘囚ヲ配セシコトアルハ、續日本紀卷九、聖武天皇、神龜二年閏正月己丑ノ條ニ據リテ之ヲ徵スベク、尾張國ノ俘囚孝行ヲ以テ著ハレタルモノト、越中ノ俘囚能ク等輩ヲ教諭シ禮義ヲ興シ行フトテ賞セラレタルモノトハ竝ニ類聚國史卷百九十、天長六年ノ條ニ見エタリ。尙ホ搜索セバ以上舉ゲタル以外ノ國ニ關シテモ夷人ノ配置セラレタルコトヲ徵スベキ記事ヲ史上ニ見出スコトアラン。今ハ只管見ニ觸レタルモノヲ便宜引證シテ叙説シタルノミ。但シ以上列舉シタルダケニテモ、夷人ノ配置ガ廣ク諸國ニ亘リ、其ノ分布決シテ或ル一部分ニノミ限ラザリシコト、竝ニ移置ノ蝦夷ニ關スル記事ガ、史上ニ多ク存スルコトヲ示スニハ充分ナルヲ信ズルナリ。

(一六) 類聚國史卷百九十、延暦二十四年十月戊午ノ條

(一七) 文德實錄卷十、天安二年五月巳卯、三代實錄卷十三貞觀八年十一月十日、同書卷十四、貞觀九年正月八日同書卷三十八、元慶四年十一月三日竝ニ同書卷三十九、元慶五年六月二十七日ノ條等ヲ參考セヨ。

夷俘及俘囚ノ配置ガ諸國ニ亘レルコトヲ示ス他ノ有力ナル徵證ハ、延喜式卷第二十六、主稅上、諸國出舉正稅公廨雜稻ノ規定ナリトス。此ノ規定ニ於テ、幾多ノ國々ノ條下救急新若シクハ悲田新ノ次ギニ俘囚新若シクハ夷俘新ヲ載ス。即チ左ノ如シ

伊勢國

俘囚新一千束

遠江國

夷俘新二萬六千八百束

駿河國

俘囚新二百束

甲斐國

俘囚新五萬束

相模國

俘囚新二萬八千六百束

武藏國

俘囚新三萬束

上總國

俘囚新二萬五千束

下總國 俘囚新二萬束

常陸國 俘囚新十萬束

近江國 俘囚新十萬五千束

美濃國 俘囚新四萬一千束

信濃國 俘囚新三千束

上野國 俘囚新一萬束

下野國 俘囚新十萬束

越前國 俘囚新一萬束

加賀國 俘囚新五千束

越中國 俘囚新一萬三千四百三十三束

越後國 俘囚新九千束

佐渡國 俘囚新二千束

因幡國 俘囚新六千束

伯耆國 俘囚新一萬三千束

出雲國

俘囚新 一萬三千束

播磨國

俘囚新 七萬五千束

美作國

俘囚新 一萬束

備前國

俘囚新 四千三百四十束

備中國

俘囚新 三千束

讃岐國

俘囚新 一萬束

伊豫國

俘囚新 二萬束

土佐國

俘囚新 三萬二千六百八十八束

筑前國

俘囚新 五萬七千三百七十束

筑後國

俘囚新 四萬四千八十二束

肥前國

俘囚新 一萬三千九十束

肥後國

俘囚新 十七萬三千四百三十五束

一本ニハ三千ノ二字ナシ。

豐後國

俘囚新 三萬九千三百七十束

日向國

俘囚新 一千一百一束

日向國ノ俘囚ノ祿料ノ稻一萬七千六百束ヲ減省セシコト類聚國史卷百九十、承和十四年七月丁卯ノ條ニ見ユ。之ニ就キテハ尙ホ後ニ述ブル

所アル
ベシ。

以上ノ三十五ヶ國ニ俘囚新若シクハ夷俘新ノ目アルハ即チ此等ノ諸國ニ夷俘
若シクハ俘囚ノ居リシニ由ルモノト云フベク、之ニ據リテ蝦夷種族ノ配置セラレ
タル國々ノ數ハ全國數ノ半ヲ過グルコト直チニ會得セラルベシ。シカモ是レ前後
蝦夷ヲ徙シ置カレタルコトアル國々ノ悉クヲ網羅ストハ思フベカラズ。何トナレ
ハ前段ニ引證セル所ニヨリテ、畿内ニ於テハ和泉、攝津、東海道ニテハ尾張、山陰道ニ
テハ丹波、山陽道ニテハ安藝、南海道ニテハ阿波、西海道ニテハ豊前等ニモ夷人置カ
レタルコト明白ニシテ、而シテ此等ハ皆延喜ノ主稅式ニ俘囚新、若シクハ夷俘新ヲ
載セタル國々、即チ茲ニ舉ゲタル三十五ヶ國以外ノ國々ナレバナリ。此ノ故ニ前後
多少ヲ論ゼズ、蝦夷ノ種族ヲ配置セラレタルコトアル國々ヲ悉ク數フルトキハ、少
クトモ四十國ノ上ニ出ヅルコト疑ヲ容レズト云フベシ

一々ノ國ニ就キテ配置セラレタル蝦夷ノ人口ヲ算定スルコトハ予輩未ダ之ヲ

能クセズ、然レドモ原則トシテ俘囚斬多ク計上セラレタル國ニ於テ多クノ俘囚居
リシト推測スルコトハ、決シテ不合理ニ非ズト思ハル、ナリ。今上ニ舉グル所ノ三
十五ヶ國中ニ就キテ俘囚斬ノ額多キモノヲ求ムレバ、最多ハ肥後國ノ十七萬餘束
ニシテ近江國十萬五千束、常陸國十萬束、下野國十萬束、播磨國七萬五千束、筑前國五
萬七千餘束、甲斐國五萬束等之ニ次グ。サレバ肥後、近江、常陸、下野、播磨及筑前、甲斐等
ハ俘囚ノ多ク置カレタル國々ト見做シテ差支ナカルベシ

續日本紀卷三十四寶龜七年十一月癸未ノ條ニ曰ク、出羽國ノ俘囚三百五十八人
ヲ太宰ノ管内及讃岐ノ國ニ配ス、其ノ七十八人ハ諸司及參議已上ニ班チ賜ヒテ賤ト
爲スト。奈良時代ニ於テ俘囚ヲ諸司及高官ノ人々ニ賜ヒテ其ノ所屬ノ賤民タラシ
メシコトアル以テ見ルベシ。而シテカク諸司及貴族ニ隸屬ノ賤民トナレル俘囚等
ハ思フニ當時ノ帝都タル奈良ニ於テ其ノ主ニ使役サレタルコトナラン。又平安時
代ニ至リテモ、當時蝦夷征討ニ赴キシ將士等、凱旋ノ日、夷人ヲ率キ歸リ、之ヲ役使シ
タルコト、必ラズコレアルベキ筈ナリ、此ノ假定ニ從フトキハ、山城モ亦大和ト共ニ

夷人ノ來リ居レル國ノ中ニ入ルコトナラン。

說テ茲ニ至レバ、或ハ難ズルモノアラン、曰ク以上ノ論ハ夷俘囚共ニ蝦夷ナリト見做シテノ論ナレドモ、俘囚ハモト王民ノ夷地ニ沒落シタルモノニシテ、蝦夷ニ非ズト云フニアラズヤ、サスレバ俘囚ノ居リシ國、即チ蝦夷ヲ移シ置ケル國トハ言ヒ難カラント。然リ誠ニ此ノ如キ論アリ。萩野由之氏ノ如キ、嘗テ如蘭社話ニ「俘囚夷俘ノ辨」ト云フヲ出サレ、夷俘ハ異種ナルモ、俘囚ハ王民ナリト論ゼラレタリキ。(一八)然レドモ此ノ見解ハ予輩ノ採ル能ハザル所ニシテ、俘囚モ一般ニイハバ夷種ナルコト疑ヲ容レズ。其ノ中ニモト王民ノ夷地ニ沒落シ終ニ夷人ト誤認セラレタルモノ偶々コレアリシトスルモ、ソレハ眞ノ例外ノ場合ニシテ、一般ニ皆然リト云フコトヲ得ザルナリ。余輩ハ今是レヨリ此ノ事ニ就キ少シク辯ジ、然ル後中古ノ世、國家ハ内地ニ移置セル夷人ヲ如何ニ待遇セシカ、彼等ニ對シ如何ナル措置ヲ採リシカヲ論ゼントス。

(一八) 如蘭社話卷三(明治二十一年一月出版)

(未完)